

# 作業学習学習指導案

題材名 「ビッグマグ製作」	日時	H 2 2 年 2 月 1 9 日 ( 金 ) 9 : 3 0 ~ 1 0 : 3 0		
	対象	中学部 陶芸班	指導形態	作業学習
	場所	1 階コンクリート室		
	指導者	( T 1 ) , ( T 2 ) , ( T 3 ) , ( T 4 ) , ( T 5 ) , ( T 6 ) , ( T 7 )		

## 題材の意義・価値

本題材は、陶芸班において今年度のまとめとなる題材である。これまで陶芸班の生徒たちは、「平皿」の製作をとおして、技法の習得の他にも、あいさつ・返事や流れ作業における協力体勢等、働く上で大切な知識や技能、態度について学んできた。

本題材の意義・価値を以下のようにまとめた。

- ・ 「ビッグマグ」は、切り取りや形成等の作業工程が多種多様なので、生徒の実態に応じて柔軟に作業内容を組み替えることができる。さらに前題材までの作業内容・工程を発展させ、陶芸における基本的な技法を全て取り入れることができるので、より生徒に応じた作業内容を選定したり、生徒の実態に応じた補助具等の工夫をすることができる。
- ・ 粘土の特性上、完成個数を毎時間設定することができるので、具体的な目標個数に対して短期的な見通しをもたせることができる。
- ・ 粘土素材は、修正・再利用が可能な利点があり、失敗を恐れずに取り組むことができるので、生徒が意欲的・主体的に作業に取り組むことができる。
- ・ 流れ作業において、生徒間でのあいさつ、他者との協調性等を学習することができる。

## 題材の目標

工程間で互いに協力して作業に取り組む態度を身に付けることができるとともに、場面に応じたあいさつや返事を行うことができる。

道具を安全に使いながら、使い手・買い手等の相手の立場に立って丁寧に製品を仕上げることができる。

## 指導の手だて

生徒全員の目標や手だてについて、また各作業内容や各工程について共通理解を図ることで、一貫性のある段階的な指導が行えるようにするとともに、急な計画変更等にも柔軟に対応できるようにする。活動の導入では、「時間を守る」、「あいさつ・返事をしっかりする」、「みんなで協力する」、「安全に実をつける」の4点の重点課題を確認することで、作業学習のねらいを意識しながら活動に取り組むことができるようにする。

協力して取り組むための手だてとして、流れ作業での多様な製作場面を設定したり、同工程間でも次の工程に引き渡すまでに協力して製作する場面を設定したりすることで、生徒同士のかかわりが十分にもてるようにする。状況に応じたあいさつや返事ができるようにするために、「お願いします。」、「分かりました。」、「終わりました。」等のあいさつカードを準備し、生徒自身で確認できるようにする。また、生徒の実態によっては、教師がモデルとなりその都度状況に応じた具体的なあいさつの仕方を示すようにする。生徒が見通しをもって活動に取り組めるように、作業時間や内容、流れ、作業量などを具体物や写真などの視覚的な手掛かりを用いて明確に示すようにする。さらに、完成目標個数を前時の完成個数と比較して、分かりやすく設定する。道具を正しく使うためには、取り扱い上の決まりや約束を決め、事故や操作ミスが起きないように留意する。約束が守れたり安全に正しく取り扱えたりした場面では、十分に称賛し、意欲や自信を高められるようにする。

## 展望

これらの活動をとおして身に付けた力は、他の教科等で身に付けた知識・技能とあわせ、働く力の向上に繋がると考える。また、本題材で大切にしているあいさつや返事、人との協力する態度等を、日常生活により活かすことができると考える。

そして、そのことが高等部におけるより実際の、実践的な作業学習への取組へとつながり、学校卒業後の積極的な社会参加へとつながるものと考え。

## 一人一人の実態から目標を設定

班の実態	<p>本班は1～3年生の全生徒17名、職員7名で構成されている。生徒全員が初めての陶芸班への所属であるが、作業態度については、各学年とも徐々に慣れてきている。</p> <p>これまで創立十周年記念品の平皿製作を主な学習活動としてきたが、全体的に作業に対する意欲・関心が高く、製品を完成させる喜びを全員で感じ合うことができている。その反面、流れ作業が効率的に機能することが難しく、目標個数の達成に及ばないときもある。また、作業を行う中で、依頼や確認等における、場に応じたあいさつ・返事が全体的に不十分なところがある。</p>
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

氏名	A (粘土まとめ・タタラ機)	B (切り取り)	C (形成)	
題材に関する個人の実態	態度	<p>【時間】 集中力が切れると、トイレに行きたがる傾向がある。教師の言葉掛けやタイマーを使用することで15分間程度作業に取り組むことができる。</p> <p>【あいさつ・返事】 名前を呼ばれると手を挙げるができる。</p> <p>【協力】 周りの道具や他の生徒の作業等が気になってしまい、協力して作業を進めることは難しい。</p> <p>【安全】 安全に対する意識が低いので教師の支援を要する。</p>	<p>【時間】 集中力が切れると、トイレに行きたがる傾向がある。教師の言葉掛けやタイマーを使用することで15分間程度作業に取り組むことができる。</p> <p>【あいさつ・返事】 ある程度、場に応じたあいさつ・返事ができる</p> <p>【協力】 言葉掛けがあれば他の生徒と協力して作業に取り組むことができる。</p> <p>【安全】 針の使用では、手遊びがあり危険を伴うことがある。</p>	<p>【時間】 決められた時間に対して、守ろうという意識をもって作業に取り組むことができる。</p> <p>【あいさつ・返事】 大きな声で場に応じたあいさつ・返事ができる。</p> <p>【協力】 自分に任された作業に集中し、他の生徒と一緒に時間いっぱい取り組むことができるが、分からないことがあると質問できず作業が滞ってしまうことがある。</p> <p>【安全】 安全に気を付けながら道具を使用することができる。</p>
	知識・技能	<p>【道具の取り扱い】 経験を重ねることで道具の使い方を徐々に理解できつつある。</p> <p>【手指の巧み性】 手のひらを使うような作業はできるが、指先を使う作業は難しい。</p>	<p>【道具の取り扱い】 教師や友達の活動を見て模倣することができる。</p> <p>【手指の巧み性】 適度な力加減で粘土を扱うことは難しいが、粘土を切る、丸める等の作業は得意である。</p>	<p>【道具の取り扱い】 道具の使い方を理解し適切に使用することができる。</p> <p>【手指の巧み性】 道具など使用する際は、右手や左手の位置を確認し、線からはずれないように切ることができる。</p>
	意思の交換	<p>日常生活でよく使う言葉は理解できる。簡単なサインや写真カードの使用によって、意思や理解を示すことができる。</p>	<p>指示理解はできるが、自分の興味・関心があることが気にかかり始めると、指示が通りにくいことがある。その反面、自分のやりたいことを素直に表現し伝えることができる。</p>	<p>日常でよく使う言葉は理解でき行動に移すことができる。しかし、自分から相談や質問をすることが苦手である。</p>
基礎課題	<p>手指機能の向上を図る。身振りやサインを使って、他者に意図を伝えようとすることができる。</p>	<p>苦手なことを前にしても、気持ちの折り合いをつけたり、自分の意思を伝えたりすることができる。</p>	<p>人前で自分の考えや気持ちを状況に応じた表情をしながら言語化することができる。</p>	
個人目標	<p>声やサインなどで、友達や教師に報告することができる。 タタラ機の作業を一人で最後までやり遂げることができる。</p>	<p>設定した時間いっぱい制作に取り組むことができる。 できるだけ一人で作業をすることができる。</p>	<p>自分で判断したり質問をしたりすることができる。 完成した作品の仕上げと確認を一人で行うことができる。</p>	

基礎課題    言語    数量    身辺処理    身体動作    社会性等    遊び余暇等    その他

## 本時の実際

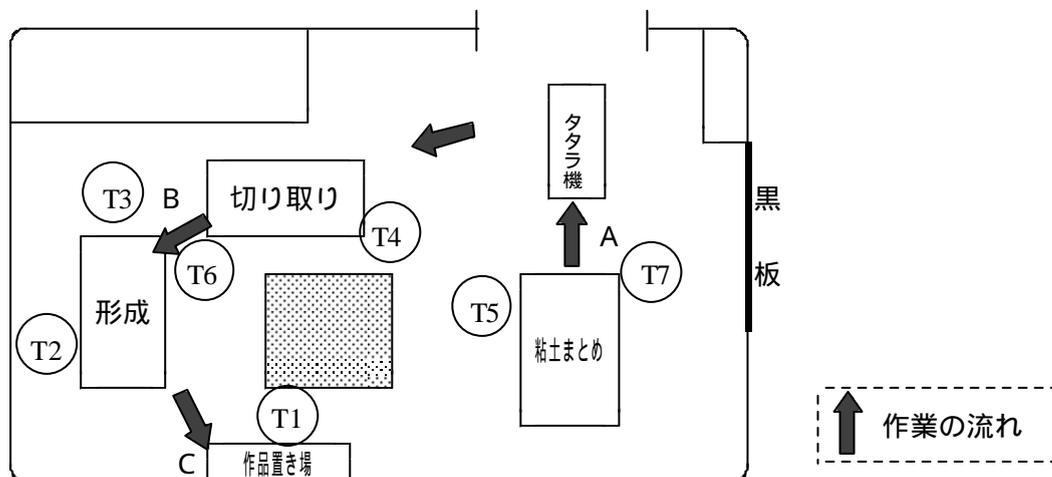
指導計画における本時の位置づけ（総時間数45時間）

次	主な学習活動	時間
一	製作物のデザインをし，試作品を作る。 製作物を決定する。	3
二	必要な道具を把握・理解する。 個々で製作をし，工程を覚える。	4
三	流れ作業で製作を行う。	23
四	釉薬がけ，窯詰め，窯出しをする。 仕上げ，梱包をし，いずよう祭りの準備をする。	5
五	題材のまとめをする。	10 本時(40/45)

指導に当たって

以下のことに注意して指導を行うようにする。

- 1 作業の開始時刻と終了時刻を時計の模型を使って示すことで，時間に対する意識と見通しをもって作業に取り組むことができるようにする。また，時間を意識することが難しい生徒には，タイムー等を利用して，視覚的，聴覚的に理解しやすい環境を作る。
- 2 生徒の実態に応じたあいさつや返事を行うことができるように，生徒同士のやり取りにもしっかりと耳を傾けたり，難しい生徒の前では，職員がモデルを示したりするなど配慮する。場に応じて，その都度指導を行ったり，元気に気持ちよくなってきた場合は称賛をする。
- 3 生徒の作業に対する意欲を高めるために，生徒が目標個数を考えたり，グループの友達と相談したりする時間を設定する。
- 4 切り取り用針やタタラ機等，危険が伴う道具・機械を扱う際には，教員の配置や道具の置き場所等を配慮する。さらに，発作のある生徒に対して，必ず教師が対応できるような配置をする。
- 5 製作に取り組む前に，前時の完成個数や仕上がりを確認することで，より具体的にイメージが持てるようにし，見通しをもって作業に取り組むことができるようにする。
- 6 生徒の実態に応じて補助具を準備したり工夫したりすることで技能的な側面を補い，可能な限り一人で作業を進められるように配慮する。
- 7 各生徒の本時の目標を事前に十分に共通理解することで，効率よくかつ機能的にT・Tが行えるようにする。また，工程間で職員の移動がある場合は，お互いのフォロー体制を十分に確認しておく。さらに，活動の場から離れる可能性がある生徒に対する対応を共通理解しておく。
- 8 やり直しの場合には，その都度反省点を明確に伝え，改善点を理解できるようにし，より完成度の高い作品を仕上げたり，目標個数を上回ったりすることができるようにする。
- 9 本時の展開における場の設定は以下の通りとする。



	全体	個人	A	B	C
目標	決まりを意識して作業に取り組むことができる。 ビッグマグを5個完成させることができる。		粘土をもらう、渡すときに「お願いします」のサインを示すことができる。 粘土をタタラ機の適切な位置に置き、途中で手を止めずにハンドルを回すことができる。	決められた時間いっぱい作業に取り組むことができる。 型に沿って真っ直ぐ切り取ることができる。	仕上げが終わったとき自ら教師に「チェックお願いします」と言うことができる。 丁寧に仕上げ作業を行うことができる。
	主な学習活動		指導上の留意点		
			粘土まとめ・タタラ機	切り取り	形成
導入 15分	1 はじまりのあいさつ 2 前時のふりかえり 3 本時の活動内容の確認 4 目標の確認 5 約束事の確認		<p>T1: 前時の製作物を実際に確認することで、より具体的に思い起こすことができるようにする。 T1: 完成度についても触れ、仕上がりの重要さも意識して製作に取り組むことができるようにする。</p> <p>T1: 意欲を高めるために目標個数は生徒自身が考えることができるようにする。 T1: 全員が意識できるよう4つの約束は指名し、発表できるようにする。</p> <p>全 必要な道具を確認し一人で道具を準備することで、製作に対する意欲を喚起できるようにする。</p>		
展開 40分	<p>6 各作業工程に分かれての活動</p> <p>&lt;粘土まとめ・タタラ機&gt; 粘土をたたく伸ばす タタラ機にかける 次の工程に依頼する</p> <p>&lt;切り取り&gt; 型を粘土に合わせる 切り取る 次の工程に依頼する</p> <p>&lt;形成&gt; 接着面に傷を付ける カップ状に形成をする 取っ手を接着する 仕上げをする</p>		<p>T5,7: タタラ機にかけやすいよう片方に傾斜をつけるようにする。</p> <p>T7: 依頼のサインができるようにするためにモデリングを行う。</p> <p>T5,7: タタラ機の指定した位置に粘土を置き操作するようにする。</p> <p>T7: 安全で最後まで回すことができるように、ハンドルは両手でもつようにする。また、粘土を置く位置には印を付けておくことで、正確に粘土をセットできるようにする。</p> <p>T5,7: 依頼のあいさつをするように言葉掛けを行う。</p> <p>T7: 発作によるケガを防ぐために運ぶ場所を指定した後は、Aの後ろから必ず付いていくようにする。</p>	<p>T3,4: 粘土を傷付けないよう型を粘土の上に置くように促す。</p> <p>T3: 指さしと「ゆっくりね」などの言葉掛けを行う。</p> <p>T3,4: 粘土の切り口が垂直になるように、道具の角度を意識するよう言葉掛けを行う。</p> <p>T3: 安全面から針ではなく粘土べらで製作するように配慮する。</p> <p>T3,4: 依頼のあいさつをするように言葉掛けを行う。</p> <p>T3: 「お願いします」とはっきり言うように、その都度見本見せるようにする。</p> <p>T3: タイマーを使用し、視覚的に作業の時間が理解できるようにする。</p>	<p>T2,6: 針とフォークを使い分けて傷をつけたり、生徒の状態に合わせて道具を変えたりする。</p> <p>T2,6: 側面を接着する際は、ゆるまないよう言葉掛けを行う。</p> <p>T2,6: 取り付ける角度に間違いがないように、型の方向を確認するように言葉掛けを行う。</p> <p>T1: 作業しやすいようにろくろを準備し、生徒自身で仕上がりを確認しやすいようにする。</p> <p>T1: 基本的には見守るようにし困惑した際はC自身から相談できるように、事前に質問することへの意識付けをする。</p> <p>T1: チェック票を確認することで、作業を一人で行うことができるようにする。</p>
終末 5分	7 反省・まとめ 8 終わりのあいさつ		<p>T1: 目標個数の確認では表に印をつけわかりやすくする。 全 反省は各グループから一人ずつ話し合いで発表者を決めることで、グループ及び全体で協力して製作したという意識を持つことができるようにする。</p>		

□ は班全体及びグループ全体の留意点。□ は対象生徒への留意点。